主催：情報セキュリティ格付制度研究会

情報管理態勢の点検に用いる情報セキュリティ格付け制度の最新動向

情報セキュリティ格付制度研究会

2013年11月28日

鈴木　茂幸

（株式会社アイ･エス･レーティング）

当資料に記載の内容は予告なく変更することが御座いますので、予めご了承願います。

法制度の改正

金融商品取引法等の一部を改正する法律
（平成25年４月16日提出、平成25年６月12日成立）

■公募増資インサイダー取引事案等を踏まえた対応
■AIJ 事案を踏まえた資産運用規制の見直し
■金融機関の秩序ある処理の枠組み
■銀行等による資本性資金の供給強化等
■投資法人の資金調達・資本政策手段の多様化等
■その他の改正事項

詳細は金融庁HP
http://www.fsa.go.jp/common/diet/183/setsumei.pdf

本件の政令は、内閣府令等と併せて、平成25年８月26日（月）に公布
本件の政令・内閣府令等は、平成25年11月５日（火）から施行
ただし、政令中、一部分については、平成25年９月１日（日）から施行

その他の改正事項

・外国銀行業務の代理・媒介に係る規制の見直し

・海外M&Aに係る子会社の業務範囲規制の見直し

・監査役の適格性

・会計監査人の解任命令

・報告徴求・立入検査の対象先
　銀行等の業務の再委託先（再々委託先等を含む）を報告徴求・立入検査の対象先に加える（委託先については、既に対象となっている）

・協同組織金融機関等の資本準備金等

・公開買付制度の一部緩和

・大量保有報告制度の一部緩和

金融庁は、銀行業務の外部委託先に対する検査・監督権限を再委託先にまで拡大する。銀行法改正案に権限強化の規定を盛り込み、再委託先や再々委託先に対しても立ち入り検査や報告の要請を可能にする。
金融関連（保険・証券に加え、貸金業、前払式支払手段発行者）に対して、監督指針のなかで、システムリスク管理態勢に係る業務の適切性評価項目を追加。

システムリスクとモニタリング

システムリスクとは？

システムリスクの定義「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」によれば
「コンピュータシステムのダウン又は誤動作等、システムの不備等に伴い顧客や金融商品取引業者が損失を被るリスクやコンピュータが不正に使用されることにより顧客や金融商品取引業者が損失を被るリスク」

- ・情報セキュリティも含む
- ・リスクが顕在化した場合の対応態勢も含む

金融業（銀行・地方銀行など）と証券業に対しての監督指針に加え、平成25年度からは、貸金業（カード会社、消費者金融など）に対しても、監督項目として追加された。

【システムリスクマネジメントのポイント】
プロジェクトマネジメントや外部委託管理に加え、利用者保護の観点からの個人情報保護に焦点が当たっている

モニタリングとは？

業務運営の状況やリスクの状況の報告を適時に受け、または調査させることによって、経営の現状を的確に把握し、方針の有効性・妥当性や全体としての態勢の実効性を検証することを意味してる、また、改訂金融検査マニュアルにおける「モニタリング」には、法令、方針、内部規程等に反する懸念のある行動を抑止することも含むものとしている
（金融庁検査マニアルに関するよくあるご質問（FAQ）　金融庁検査局）

モニタリング基本方針

- 平成25 事務年度 金融モニタリング基本方針（平成25 年9 月6 日金融庁）

金融モニタリングの見直しの方向性

【リアルタイムでの金融機関、金融システムの実態把握】

【業界横断的な課題の抽出、改善策の検討】

【より優れた業務運営（ベスト・プラクティス（最良慣行））の確立】

金融機関

金融モニタリングにおける検証項目

①経営管理（ガバナンス）②金融仲介機能・金融円滑化③リスク性商品

④市場リスク管理⑤信用リスク管理（集中リスク）⑥マネー・ローンダリング防止（犯罪収益移転防止法対応）⑦法令等遵守⑧顧客保護・利用者利便

⑨信託業務⑩IT ガバナンス（IT システムリスクの統制）

保険会社

金融モニタリングにおける検証項目

①経営管理（ガバナンス）②法令等遵守③募集管理及び顧客保護等

④統合的リスク管理及び資産運用⑤IT ガバナンス（IT システムリスクの統制）

金融検査結果事例集

金融検査結果事例集（平成24 検査事務年度後期版）（平成25年8月金融庁検査局）より

システムリスク管理態勢

システム障害発生時の対応状況や、業務の拡大やシステムの更改・統合等への対応状況、システムの外部委託等に係る管理等について、重点的に検証を実施

＜結果＞

多くの金融機関において、システム障害発生時の対応状況について、再発防止策が有効に機能しているかどうかについてフォローしていないとの指摘や、コンティンジェンシープランの実効性を確保するための訓練計画を策定していないなどの指摘がみられる。また、システム更改・統合等への対応状況について、該当する多くの金融機関において、プロジェクトの進捗状況を取締役会に報告していないなどプロジェクト管理が不十分であるといった指摘がみられる。さらに、一部の金融機関においては、システムの外部委託等に係る管理等について、外部委託先によるプログラム修正に伴って発生したシステム障害について、外部委託先の態勢が有効に機能しなかった原因分析を行っていないなどの指摘

外部委託先監査のポイント

◆（多数の委託先点検について）社員の負担軽減

◆自社基準に加えて、外部の客観的評価がポイント

⇒検査時に第三者評価による客観的なデータを提示することで説明責任を果たせる

◆マネジメント成熟度＆対策強度の観点と、重要情報資産の管理状況について、業務フローの観点と評価がポイント

⇒現場の管理状況（実態）を正確に評価

◆対策水準（強度＆成熟度）や経年変化の見える化、他委託先との比較

◆実地点検のクオリティ向上（より実査・現地確認項目を充実）

⇒専門家による審査により、情報管理点検の形骸化防止

⇒監視、追跡できる態勢を確認

例えば、外部委託先における①顧客データの所在の特定状況、②顧客データの使用状況、③顧客データの不正使用の監視態勢、④情報漏えい等が発生した場合の追跡態勢等を、金融機関が検証できる態勢を確認

◆委託先において、外部審査による情報管理意識・セキュリティ水準の向上

⇒委託先の意識向上と取組みの強化

システムリスク点検の課題

◆現実的な話として、一部の委託先は委託元が直接立入って検査することを、他のお客様情報に触れる可能性があるとの理由で、完全な形では受け入れ難い可能性がある

⇒直接ビジネスとの利害関係がない格付会社が立入検査を実施することで、金融庁が求めている「外部委託先における業務の実施状況を定期的又は必要に応じてモニタリングする等、外部委託先において顧客等に関する情報管理が適切に行われていることを確認」を達成可能となる

◆委託先からの意見として、「毎年、数十社（多いところでは百社以上）より、様式及び確認の観点が異なるチェックリストへの回答、及び現地審査への対応を行っており、毎日のように監査対応を行っている。各委託元からのチェックリストを標準化（共通化）して欲しい、との意見について解決策になる

⇒各委託元（金融機関）は共通のガイドライン等を踏まえてチェックリストを作成しているはずである。共通化することで負担を軽減することについて検討の余地はある

弊社が展開する情報セキュリティのレベルに関する共通の評価プラットフォーム（n対nの解消）が広がると委託元及び委託先（監督当局を含め）の業務効率化が図れる

◆委託先監査スキル、委託先管理コスト削減

⇒システムのスキルがないので、監査出来ない。コスト効果を目的に、外部に委託したのに監査にコストがかかってしまっては意味がない

システムリスクマネージメント

■自社のリスク点検とステークホルダーへの説明責任は？

システム障害対策は
情報漏洩対策は
コンティンジェンシープランの実効性は

■委託先のモニタリングは？説明責任は？

障害発生時の対応は
情報漏洩対策は
コンティンジェンシープランの実効性は

■セキュリティ対策は万全？（事前・リアルタイム・事後）

情報セキュリティ対策
　　ファイヤーウォール
　　フィルタリング
　　セキュリティソフト（アップデート）
リアルタイム管理、ログのモニタリング
証跡確保、対処、公表、対策、信頼回復

■ヒト・プロセス・テクノロジー？

ヒト・・・情報セキュリティリテラシー向上・教育
プロセス・・・手順・ルール
テクノロジー・・・セキュリティ製品の活用

対策は万全、教育も万全
管理態勢は問題ない
完璧だぁ！！！

まぁ、当たり前ですが！
当然委託先も問題無し！
みんなキチンとしているに
違いない！
契約を締結しているから
大丈夫！
・・・・・・・・モヤモヤ

第三者による客観的な評価

■メニュー偽装はなぜ？

食材偽装問題　専門家は常態化の原因を「性善説」と指摘〈週刊朝日〉11月22日号

今年5月に東京ディズニーリゾート（TDR）のホテルで発覚した問題が発端となり、一流ホテルや百貨店で、メニュー表示と異なる食材を使う「食材偽装」が次々と明るみに出て、各社は利用客への返金作業に追われている。（中略）

「スーパーなど小売店の商品表記は、過去に偽装問題が発覚したため日本農林規格（JAS）法の罰則が強化された。一方、外食産業は基本的にJAS法の適用外。行政による監視もされていない“性善説”の業界だったのです」一流ブランド企業でも、性善説では堕落するというわけだ。

■性善説限界？

⇒きちんとビジネスをしている企業が報われない

やって当たり前ではなく、きちんとやっていることを示す

我社は、他とは違う！

我社は、信頼をモットーにビジネスをしている！

他社と一緒にされては、迷惑だ！

まじめに、きちんとしっかりとやっている企業を支援

⇒第三者による客観的な評価

■第三者による客観的な評価？

⇒第三者証明書発行サービス・情報セキュリティ格付け

■第三者による客観的な評価による効果

・自社・委託先・再委託先も含めたリスクマネジメント

外部委託先も含めた管理態勢・ガバナンスの確立、維持

・セキュリティ実施強度／事実・対策の証明、監査の実効性向上

・社会的なコスト削減

・委託先からの積極的なアプローチ
・きちんと実施していることをアピール
・監査の実効性アップと効率化

第三者証明

第三者証明の活用

第三者証明は、取引先に対し正当性・適切性の証明を行うことだけでなく、製品、サービスおよび会社の品質への取り組みをアピールすることや内部に対して対策の実施状況をアピールすることに活用することができます。

外部に対する活用

■第三者証明により、同種製品・サービスに差別化を図ることができる。

■第三者証明書を公表して、ステークホルダーに安全性や品質に対する積極的な取り組みをアピールすると、販路拡大等の機会が増える。

- 取引先にアピールできる（BtoB）
- 個人利用者にアピールできる(BtoC)

内部に対する活用

■第三者証明により、経営者や現場責任者が自社製品・サービスに係る品質や安全対策を客観的な視点で再点検する。

■第三者証明書を公表するに至らない場合でも、改善点の提示により、製品・サービスの品質向上に向けた課題を浮き彫りにし、改善へと繋がる。

事実の説明、無実の説明、対策実施の説明を、外部の専門家が確認することをアピールすることで、当事者では解決できない説明責任を果たすことができます。

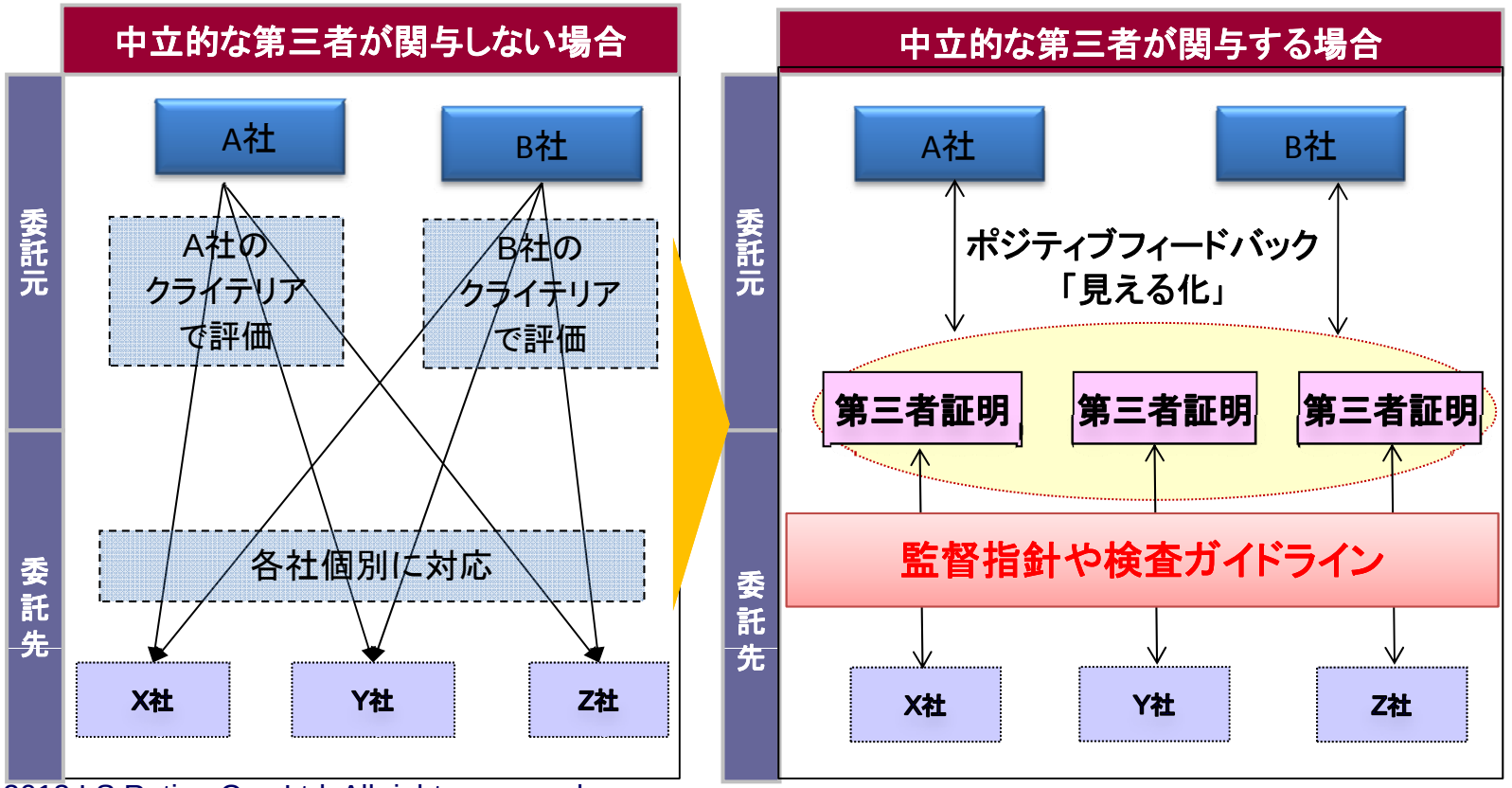
第三者証明

第三者証明書発行サービスの目的

■当局の監督指針や検査ガイドラインの管理項目を活用して、組織（企業・団体）の情報セキュリティに関するマネジメント・プロセスを客観的に確認。ひいては、事業者間で輻輳しかねない相互の取引確認を第三者証明書を用いて解消し、調査コスト・工数の効率化を図るなど社会的なコスト削減。

■第三者証明書により信頼確保に向けた取組の“見える化”により説明責任を果たすとともに、ステークホルダーにアピールすることで販路拡大等につなげる機会を創出。

■専門知識を有する第三者が客観的な立場で対策状況を診断することで自社の強み・弱みが浮き彫りになり、経営資源配分等の基礎資料として活用可能。



第三者証明

第三者証明書の利活用

委託先監査の実効性を上げ、社会的コストを削減

◆情報セキュリティ監査の代行

管理手順・運用手順の順守状況を第三者が確認し、手順が遵守されていることを証明する。

- ・重要情報の情報セキュリティ対策が万全であることを確認する。
- ・委託先監査の代行として、第三者証明書を利用する。
- ・情報セキュリティの委託先監査を第三者に委託する。

委託先側としては、複数の委託元に第三者証明書を利用して監査の代行とすることで社会的コストを削減できる。

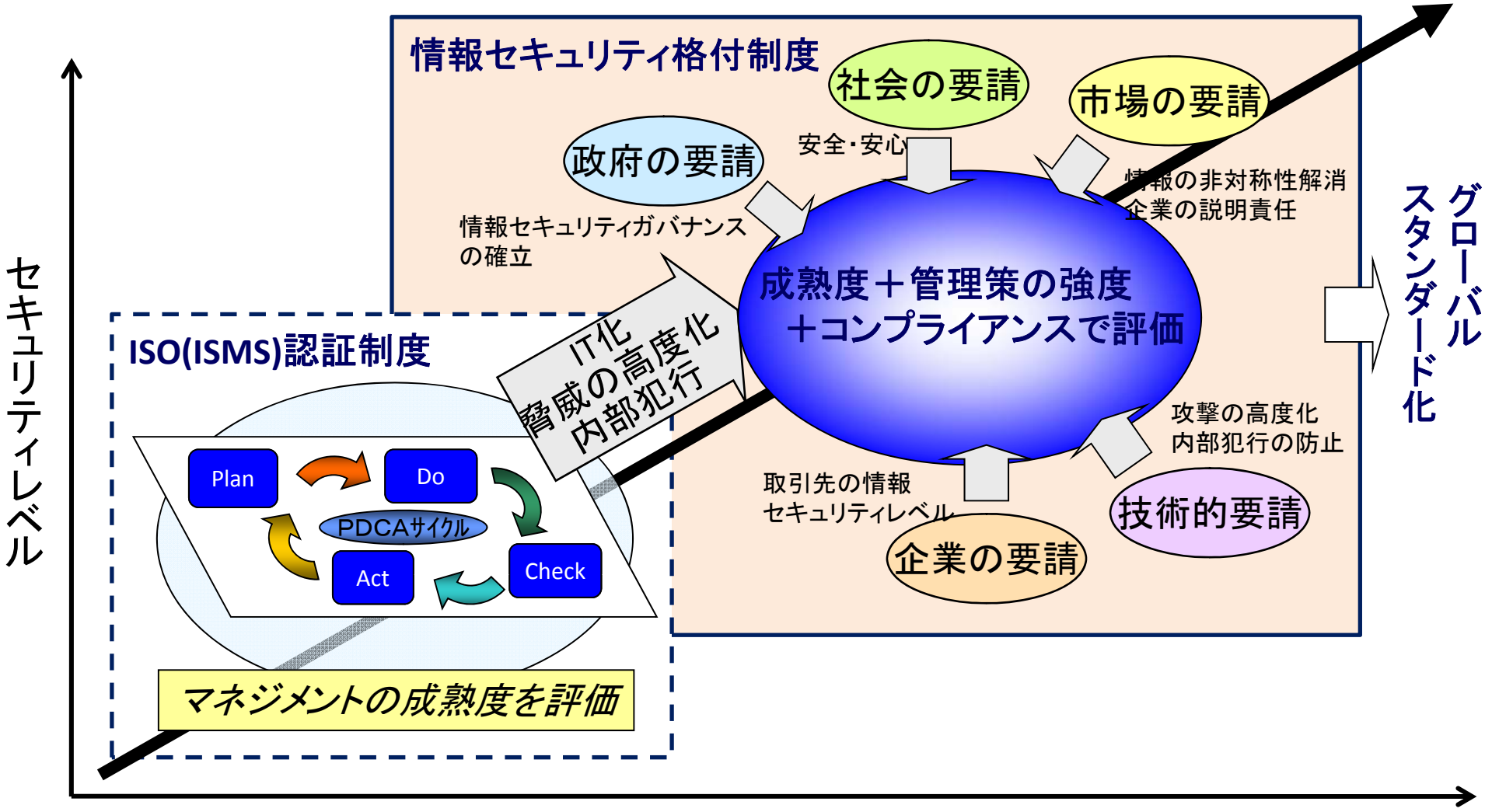
各内部監査（情報セキュリティ、個人情報保護、システムセキュリティなど）結果を第三者が証明することで、信頼性確保に向けた取り組みを‘見える化’し、説明責任を果たすことができる。

委託先の監査（規則・手順野順守、情報セキュリティ）として、外部の専門家が第三者として証明する。その証明を委託元・委託先で共通で活用することで社会的なコスト削減を目指すとともに、社内監査リソースの補完をする。

情報セキュリティ格付

情報セキュリティ格付の必要性

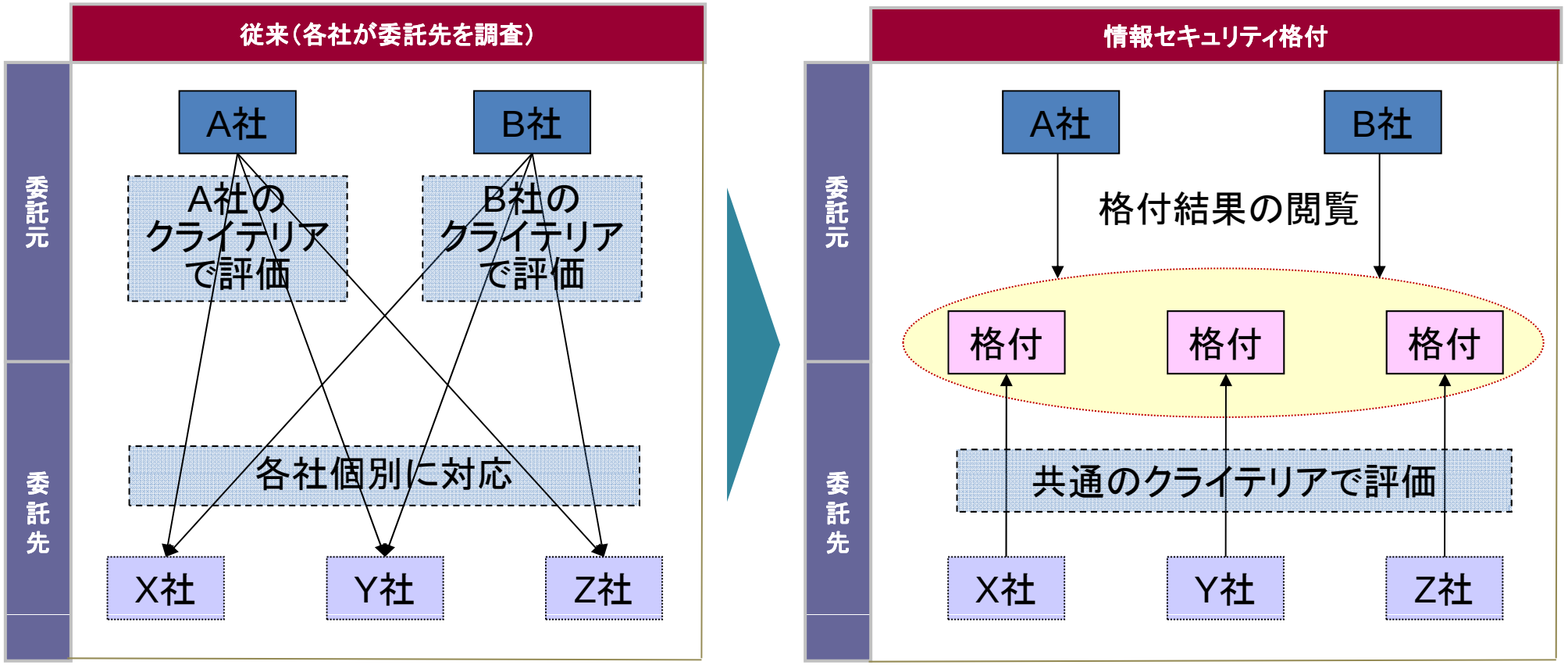
■ 後を絶たない情報セキュリティ事故、社会・市場は認証制度に加え、実態に即してレベルを評価する制度を要請



情報セキュリティ格付

情報セキュリティ格付制度が目指すもの

- 情報セキュリティのレベルに関する客観的評価指標、共通の枠組みが確立し、社会インフラとしての格付プラットホームが形成され、取引先・委託先の重複評価が解消される
- n対nの評価が解消されることで、発注者、受託者間の情報の非対称性の解消、調査コスト・工数の効率化が図られ、発注者、受託者双方にとって大きなメリットが期待でき、社会コスト削減にも貢献できる



情報セキュリティ格付

格付の定義（17段階）

情報セキュリティ格付とは

■企業等の組織が取り扱う技術情報や営業秘密、個人情報等のセキュリティ水準に関して、情報漏洩、改ざん、サービス停止等、想定するビジネスリスクへの耐性の度合い（脅威に応じた管理策の水準、事故の起きにくさ）を示す格付機関の意見です。

■評価に当たっては、（1）マネジメントの成熟度、（2）セキュリティ対策の強度、（3）コンプライアンスへの取り組みなどの観点で計測し、記号や数値で指標化します（事故が起きないことを保証するものではありません）。

格付符号の表記法と定義

AAA is	リスク耐性は極めて高く、多くの優れた要素がある。
AA is	リスク耐性はかなり高く、優れた要素がある。
A is	リスク耐性は高く、部分的に優れた要素がある。
BBB is	リスク耐性は十分であるが、将来環境が大きく変化する場合、新たな対策が必要である。
BB is	リスク耐性には注意すべき要素があり、将来環境が変化する場合、新たな対策が必要である。
B is	リスク耐性に問題があり、絶えず注意すべき要素がある。
C is	リスクが顕在化する可能性が極めて高い。

（注）上記の格付けの各レベル内の位置が上位または下位ある場合は‘+’または‘－’符号を付記する。 また、添え字の“is”は、Information Securityの頭文字。なお、AAAとCには‘+,－’符号は付記しない。

第三者による客観的な評価

なぜアイ・エス・レーティングなのか

〇アイ・エス・レーティングでは、「情報セキュリティ格付けサービス」・「第三者証明書発行サービス」を提供しています。
利害関係のない中立な第三者の評価機関として、専門的かつ客観的な立場 から、プロセスの内容や質、事業者の経営や企業統治の状況を確認し、その正当性・適切性について証明書を発行することが可能です。

アイ・エス・レーティングは、第三者による客観的な評価を行う機関として、次のようなメリットを保持しています。

■公正、中立の格付機関
格付機関として設立されているため、株主が格付審査に影響力を行使できないように1社・1企業グループの出資比率を20%以下に抑えるなど、公正性、中立性が高い機関。

■格付機関としてのノウハウ
格付機関として、様々な格付を実施してきた中で、製品やサービスの提供プロセスの正当性・適切性を判断するノウハウが確立。

■お客様の目的にあわせて証明項目をカスタマイズ
お客様の業種、取引先等の事情により、第三者証明したい内容が異なることに対応し、事前に打ち合わせにより、証明項目をカスタマイズ。

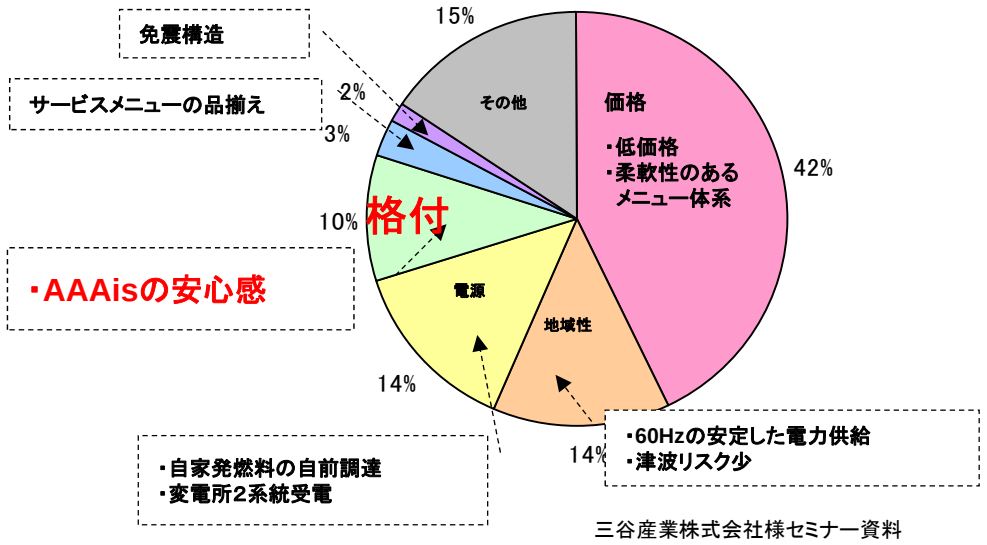
格付け・第三者証明取得の効果

◆格付けで情報セキュリティの強度をアピールできる。

・データセンター、コールセンターなど、
重要な情報拠点を選ぶうえでの決定要因
となる。

・商談獲得に貢献するなど、
お客様の価値創造をサポートする。
(例えば、お客様からの個別の質問に対し、
第三者証明書を用いて迅速に回答できる)

決め手となったポイント(複数回答)



三谷産業株式会社様セミナー資料

◆格付けで自社のリスクマネジメント体制の点検できる。
・情報セキュリティレベルの客観的な指標、セキュリティ向上の投資効果測定が可能。

◆セールスツールとして活用できる。
・取得内容を弊社ホームページに掲載し、アピールします。
・日経BP社(BPnet Mail、ITpro News、ITpro Security)のメールマガジン発信。
約50万件の配信により、取得企業を弊社がアピールします。
・取得企業のトップインタビューを弊社ホームページに掲載します。

◆IT格付通信◆とは

情報セキュリティ格付結果の公表、第三者証明結果の公表による企業のアピールと
弊社サービスのプロモーションを目的とし、◆IT格付通信◆として発信しています。

■2013年4月23日配信（ITpro News）、4月25日配信（Bpnet Mail）、5月9日配信（ITpro Security）

◆IT格付通信 009◆(PDF) http://h.nikkeibp.co.jp/h.jsp?no=065551 (I.S.Rating)
☆ 富士通株式会社『明石システムセンター、最高格付け【AAA】』維持 ☆
高信頼な運用管理システムを備えた西日本地区のアウトソーシングセンター。
非接触カードリーダーや血流認証装置による入退室者チェック等、万全な対策
とセキュリティマインドの高いスタッフが、お客様システムを守ります。

■ 2013年9月27日配信（ITpro News）、9月27日配信（Bpnet Mail）

◆IT格付通信 011◆詳細 http://h.nikkeibp.co.jp/h.jsp?no=073980 (I.S.Rating)
☆「ギフトカードASPサービス」（凸版印刷様、富士通エフ・アイ・ピー様の共同
事業）が決済サービスで初の情報セキュリティ最高格付け【AAAis】を取得！☆
情報セキュリティ格付けと第三者証明書をあわせて、取得。セキュリティ・可用性・
事業継続について、第三者による客観的な評価を実施。安心・安全なサービス提供。

■ 2013年10月15日配信（ITpro News）、10月9日配信（Bpnet Mail）、10月17日配信（ITpro Security）

----PR----

◆IT格付通信 012◆詳細 http://h.nikkeibp.co.jp/h.jsp?no=076508 (I.S.Rating)
☆大日本印刷株式会社様、蕨工場で情報セキュリティ最高格付け【AAAis】取得☆
IPS(Information Processing Services)関連部門のセキュリティ強度を第三者が確認
☆NRIセキュアテクノロジーズ様、クリプト便で同最高格付け【AAAis】取得☆
クリプト便（セキュアなファイル交換）運用部門のセキュリティ強度を第三者が確認

トップインタビューの実施

■「情報セキュリティ格付サービス」ご利用のお客様に、格付け取得後、トップインタビューを実施し、弊社ホームページ（PDF資料としてダウンロード可能）に掲載します。合わせて、日経BP社のメールマガジンの配信も実施します。

トップインタビュー　　株式会社富士通エフサス様

株式会社富士通エフサス
代表取締役社長　今井 幸隆
本社　神奈川県川崎市中原区中丸子 13-2　野村不動産武蔵小杉ビル

情報セキュリティ格付け取得企業の声　＜株式会社富士通エフサス＞
コールセンターでは最高水準の「AA+is」を取得

格付けは信頼性を示す指標。お客様に安心を提供しています。

株式会社富士通エフサスは、「安心力」と「創造力」をキーワードに、IT インフラ・サービスのリーディングカンパニーを目指し、「インフラインテグレーションサービス」「運用サービス」「メンテナンスサービス」の３つのサービスを展開しています。そのうち、IT 運用に関する問い合わせに対応する「富士通 LCM（ライフサイクルマネジメント）サービスセンター（東京センター）」をスコープとした、情報セキュリティ格付けにおいて「AA+is」を取得しました。
格付けを取得する目的や効果などについて、執行役員常務の平野一雄取締役と宮田英明執行役員にお聞きしました。

右から取締役執行役員常務平野一雄様、執行役員宮田英明様

お客様の業務にまで踏み込んだ戦略的な展開を目指しています。

ヘルプデスクでできることをサービス化して展開するということだけではなく、よりお客様の業務にまで踏み込んだ戦略的なところまでのお手伝いができるようなトータルソリューションの提供を目指しています。
たとえば、ICT があまり使われていない農業分野などでの展開はすでに始めています。医療分野においても医師が患者様の自宅を訪問する「在宅医療」業務を効率化するために、看護師資格保有者を LCM サービスセンターに常駐させ、夜間休日を含む 24 時間患者様からの電話を受け付けるサービスを提供しています。その業務では、センシティブな情報も取り扱うことになります。
また、事業継続の観点からのご要望が増えています。複数のコールセンターで受けられる体制を整えて欲しいという要望については、全国８カ所のセンターとデータ連携することで実現しています。また、平日の時間帯はもとより、システム管理者が不在となる夜間・休日の問い合わせについても対応しています。

格付け取得により情報の安心・安全をｱﾋﾟｰﾙし、自社のﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ体制の点検に活用しています。

このように、お客様のご要望が広がっていくなかで、ますます LCM サービスセンターの役割が大きくなっており、カバーしなければならない情報セキュリティの幅が広がっています。教育などの人的対策から区画整備やカメラ監視などの物理的／技術的な対策を積極的に行っています。それらの取り組みを、第三者により成熟度の観点だけではなく、悪意者への対策度合いを評価していただくことで、お客様に信頼をお示しすることができ、安心してご利用いただける環境を提供できています。
情報セキュリティ格付け取得により、情報の安心・安全をアピールすることで、ビジネス拡大につながっています。また、社内でのリスクマネジメント体制の点検にも活用しています。
培った ICT 運用のノウハウに、情報セキュリティの信頼性を加えた環境をベースとして、トータルソリューションを目指すことで、お客様の個別ニーズに応じ、システムライフサイクルの全体最適化とコスト削減を実現していきたいと思います。

●お問い合わせ先 株式会社アイ・エス・レーティング 〒103-0023　東京都中央区日本橋本町 1-10-2 第 20 ビル 8 階
TEL:03-3273-8830　http://www.israting.com

--☆PR☆----------
◆IT格付通信 007◆(PDF) http://h.nikkeibp.co.jp/h.jsp?no=059551 (I.S.Rating)
☆ 情報セキュリティ格付け取得企業の声 ＜株式会社富士通エフサス様＞ ☆
☆ コールセンターでは最高水準の「AA＋」取得 ☆
格付けは信頼性を示す指標。お客様に安心を提供しています。格付け取得により情報の安心・安全をアピールし、自社のリスクマネージメント体制の点検に活用

-

情報セキュリティ格付け取得の狙い、目的、効果などを弊社がインタビュー実施して、「トップインタビュー」として編集します。

情報セキュリティレベルの向上

■情報セキュリティの見える化が有効に機能する

情報セキュリティのレベルはトップからの指示だけでは、“やらされ感”が蔓延し、
中々上がらない。担当部門は縁の下の力持ち的存在で頑張っているにも関ら
ず他部署から敬遠される。推進部門もモチベーションがあがらない。
しかし、担当部門の頑張りを“見える化”することで、情報セキュリティ格付け
取得企業（維持・更新）の情報セキュリティのレベルは確実に上がる

■情報セキュリティ担当窓口が積極的になる

情報セキュリティ窓口を支援
やらされ感が払しょくされ、やる気になる
情報セキュリティ対応部門のやる気が、全部門のやる気になる

■情報セキュリティの重要度の認識が強まる

何のために情報セキュリティのレベルをあげるのか
情報セキュリティリテラシーが向上する

⇨ 確実に情報セキュリティのレベルが向上します
コンプライアンス（法令順守）の意識が確実に向上します

情報セキュリティレベルの向上、コンプライアンス強化のためにも格付けは有効な手段

＜参考＞政府動向

情報セキュリティ格付け制度の背景

■ この度の情報セキュリティ格付けの取組みは、国の動き(グローバル情報セキュリティ戦略)と連動しての民間主導の仕組み作り

〈背景〉
- 社会の神経系となった情報技術
- 事故の影響の増大
- コンプライアンス(個人情報保護法 等)
- 情報セキュリティ強化と、企業競争力や企業価値の向上との関係が見えにくい

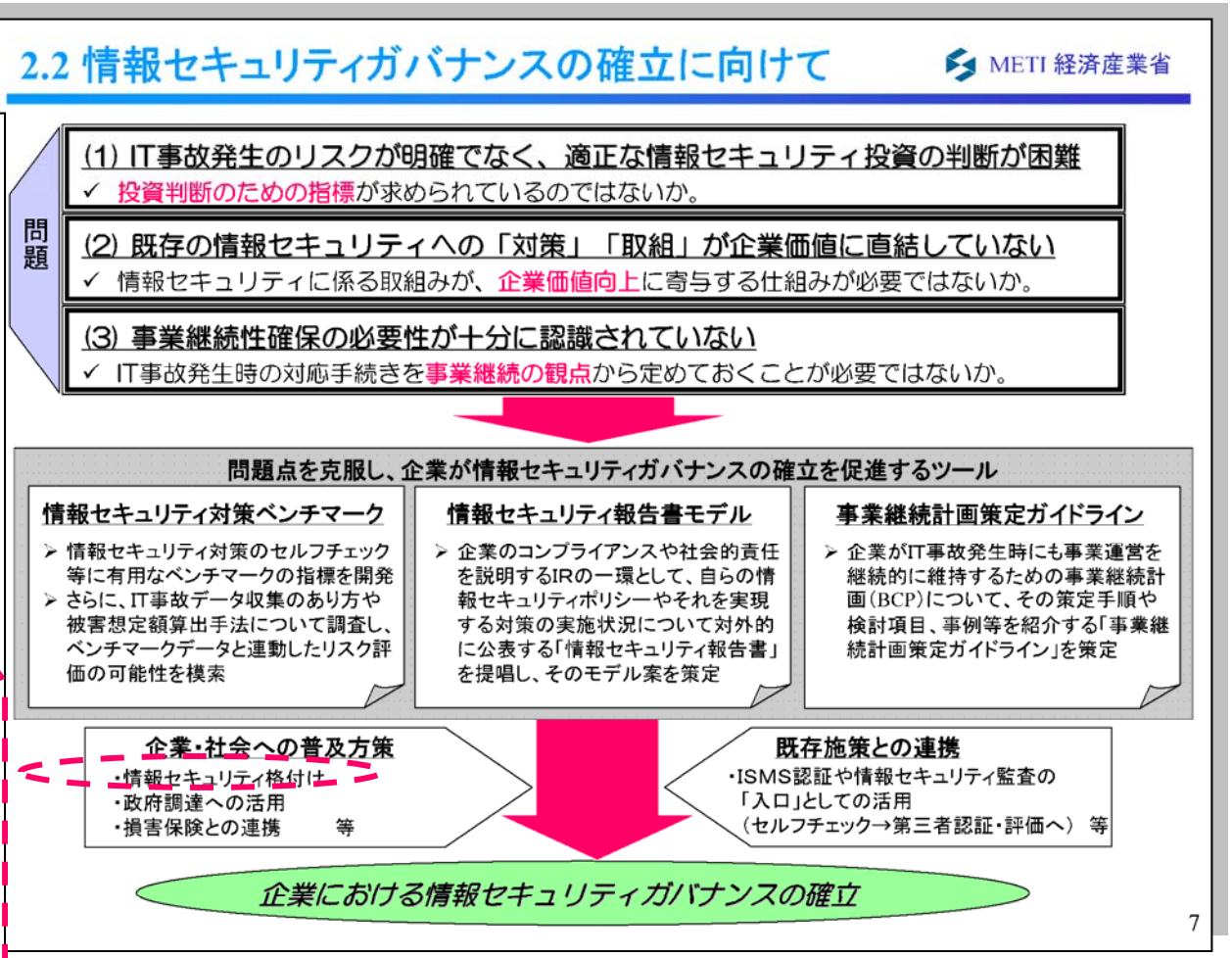
「情報セキュリティガバナンスの確立」

〈グローバル情報セキュリティ戦略〉
経済産業省 2007年5月

(企業の領域)

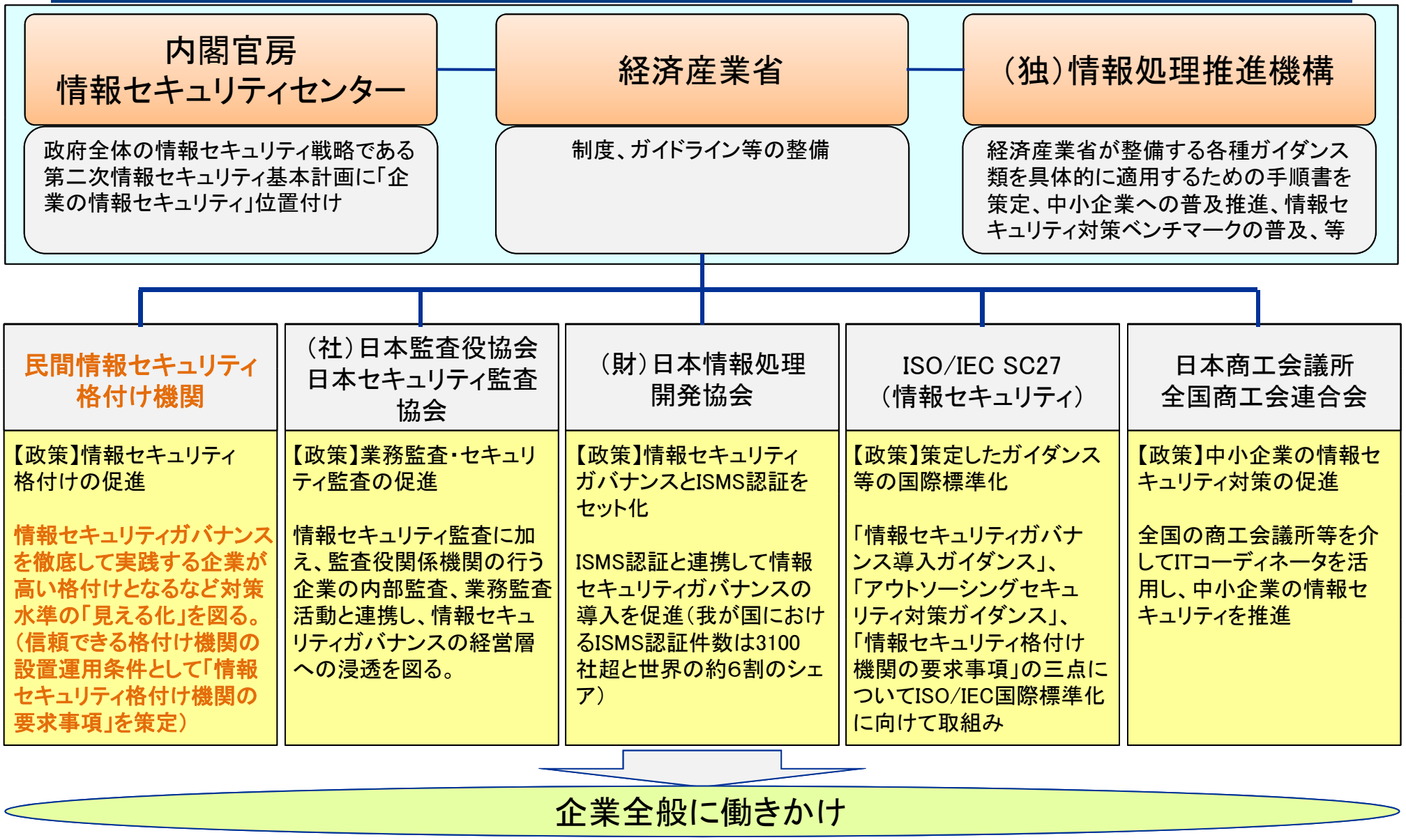
情報セキュリティ対策の成熟度向上等に向けた市場メカニズムの強化

情報セキュリティ対策状況に係る情報開示を通じた民間格付けの促進等



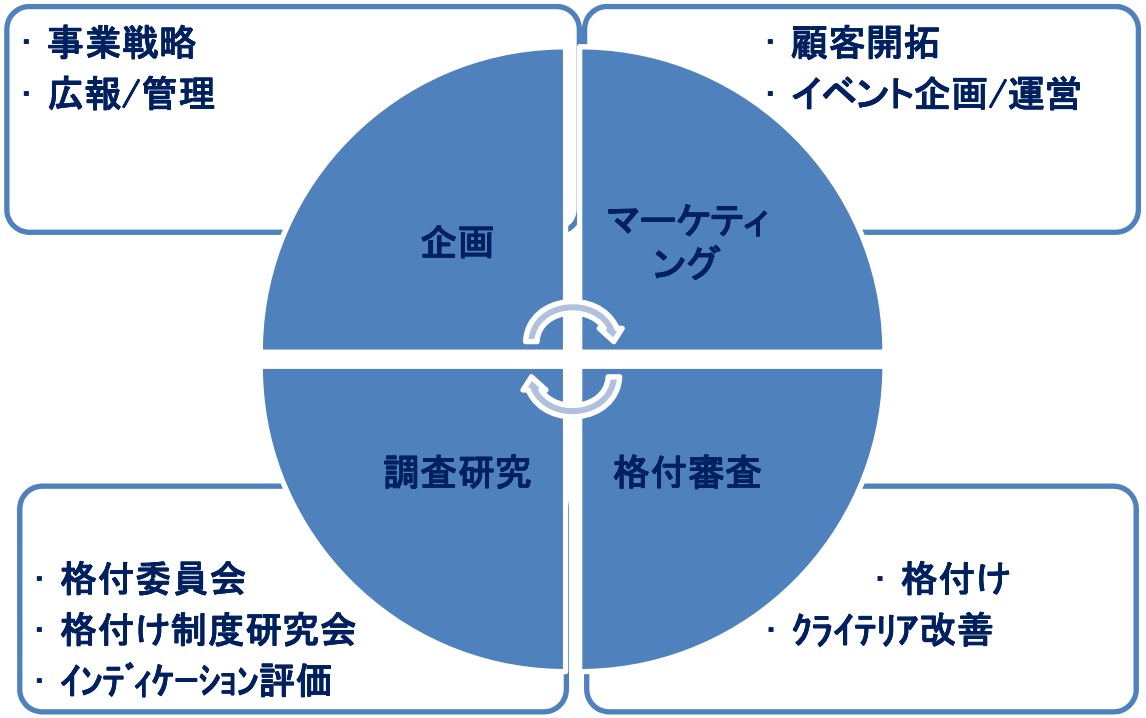
＜参考＞政府動向

情報セキュリティガバナンス確立促進政策



出典：経済産業省　産業構造審議会資料を参考に加筆

「格付・第三者証明」で確かめ合う、情報の安心・安全」



お問合せ先

株式会社アイ・エス・レーティング

TEL： 03-3273-8830

E-mail： ISR@israting.com http://www.israting.com/

なお、当資料に記載の内容は予告なく変更することが御座いますので、予めご了承願います。